



2016年1月号

とらきち君からの手紙

発行責任者
小野 義廣



はじめくん、12月9日についてお兄ちゃんになりました。3310gの男の子です。名前は「陽」くんになりました。「歩」と「陽」で両親の意見が分かれ、最後にどちらかに決めたのは、はじめくんです(^_^)v



名付け親は、はじめくんということになりました。ボクとしては、一と歩で「一歩」がいいなあと思っていましたが、「陽」もなかなか悪くない。「一陽来復」=悪い傾向にあったものが、良い方向に向いていく意。

いんてくようほう

「陰徳陽報」=誰にも知られないように善い行いをする、必ずよい報いがある意。これなんかボクの仕事に関係ある「陰陽五行」=この世の全てのものを造り出す陰と陽の気と、この世の全ての生み出す元となる木・火・土・金・水の五つの元素の意。「陽」の付く四字熟語を探してみました。

さてさて、一年は速いもので、今年もあと残りわずかとなりました。「1日は自分の年齢が時速となって過ぎていく」と言われていますから、はじめ君の時速5kmから比べれば、ボクの場合は時速61kmで過ぎ去るわけですから早いのは当たり前ですね。

この一年を総括してみると、良く笑った一年でした。定例の笑いヨガだけで60回。依頼された笑いヨガを入れると優に100回を超えます(^o^)単純計算で、1講演1時間として100時間、参加者30人として、3000人と笑いました。もう、笑いヨガを始めて7年が経過しましたから、延べ700時間、2万人以上の人達と笑ったことになりました。これだけ笑えば、ボクの人格そのものも変わっていきます。

いつでも、どこでも、どんな状況に合っても笑い顔。いつも、「ありがとう」「感謝」の言葉が自然に出るようになり、自分の周りで起こることは、どんなことでも「必然」として受け止め、そんな自分を赦せるようになりました。不思議といやなことは起きません。毎日毎日が楽しいです。



小学生も10歳を超えればなかなか難しい。ボクも小学生相手に笑いヨガをしたことがあります。好き勝手なことを始める。講演になると「ウソだ!」「ウゼ」とかストレートなヤジが飛んでくる。

内田達夫さんという人がいる。どんな野次を浴びせられても、上手に受け止め、小学生の心を驚かみにしてしまう。彼の人生は楽しいことはなかった。高校卒業後、ミュージシャンを目指すも挫折。飲食店の店長で小金を貯めたが、一発逆転を狙って先物取引に手を出し、貯金がなくなった。

人生リセットして生命保険の営業マンになった。朝から晩まで飛び込み営業で門前払いの日々。ある年の大晦日、夜遅く仕事から帰宅するとNHKの「紅白」が始まっていた。次々登場する歌手はみんな成功者の顔をしていた。ふと鏡で自分の顔を見てぞつとした。死に神のような顔だった。

その時鏡を見ながら、出演者の中村雅俊さんの物まねでセールストークをしてみた。おかしくて一人笑った。次々と出てくる歌手の物まねをした。信じられないかも知れないが、ダメセールスマンだった彼は翌年トップセールスマンへと変身していた。

独立後、日本有数の投資家の講演を聞いた。講演後「どうしたらそんなにお金持ちになれるんですか?」と質問した。意外な答えが返ってきた。「百万回くらい『ありがとう』を言っていたら僕くらいの金持ちになれるよ。」

やってみようと思った。「ありがとう」を百万回数えるのは大変だと思い、数量カウンターを首からぶら下げた。それを「ありがとうカウンター」と呼んだ。「ありがとう」を1回言う度に1回押す。3つのルールを作った。①「何かあったらありがとう」人から何かして貰ったら「ありがとう」②「何もなくてもありがとう」毎日動いてくれている心臓や周りの自然など当たり前と思っていることに、「ありがとう」③「何があってもありがとう」ちょっとした不幸やピンチなど、不運なことがあってもありがとう。1万回をクリアするごとに身の回りに奇跡的な出来事が起こるようになった。「ありがとう」を言う癖を付けていると、「感謝神経」が磨かれて、何を見ても、何が起きてもありがたく思えてくるそう。内田さんの「ありがとうカウンター」57万回を超えた。奇跡は起こり続けている。

今年一年「ありがとう」ございました。感謝!

はじめてとらきち君からの手紙を読む方へ、はじめ君は店長の初孫です。多少の可愛いがりすぎは、お許し下さい。